

北西部ブロック消防指令業務の共同運用に係る検討結果

消防指令業務共同化の範囲	消防指令業務の共同化とは、複数の消防本部における消防指令業務を1ヶ所の指令センターで共同運用するものであり、運用方法が決定されるまでの間、本計画における消防指令業務の共同化の範囲については、「すべての部隊運用を共同で行うが、各消防本部においても部隊運用管理を行えるようにするため、各本部に消防情報共有システムを整備する方式」により整備に当たっての検討を進めることとする。
本計画策定の前提条件	本計画の策定に当たっては、共同運用を行うことによりもたらされる効果を損なうことのないよう、以下の条件を充足することを前提とする。 1 住民サービスの向上が図れること 2 ブロック内すべての構成消防本部において行財政上の効果が期待できること 3 共同整備システムは異なる部隊運用計画に対し柔軟に適応できるものとする

検討結果		
事務局	松戸市消防局	
構成消防本部	松戸市・市川市・野田市・習志野市・柏市・我孫子市・流山市・八千代市・鎌ヶ谷市・浦安市	
設置場所	松戸市消防局	
共同運用開始時期	平成25年度（6消防本部）：第1期整備 松戸市・市川市・流山市・野田市・鎌ヶ谷市・浦安市 平成32年度（10消防本部）：第2期整備 松戸市・市川市・流山市・野田市・鎌ヶ谷市・浦安市・柏市・我孫子市・八千代市・習志野市 船橋市は、指令業務において独自の「ドクターカーシステム」を取り入れており、医師会等と協議を重ねた結果、地域に密着したドクターカーシステムは独自の指令業務で運用することが望ましいとの結論に至り、北西部ブロック第2期整備の参加を見送ることとされた。	
整備スケジュール	27年度：調査・研究 28年度：基本設計 29年度：実施設計 30年度：工事 31年度：工事・試験 32年度：工事・試験・共同指令センター運用開始	
整備方式（整備主体）	協議会方式（松戸市消防局）	
整備方法	国への財政支援措置要望結果を踏まえ、今後、構成消防本部で協議	
整備費用	約49億円（240万人規模）	
整備費用負担割合	個別整備部分（約32億円） ・各消防本部が署や車両台数に応じ個別に整備 共同整備部分（約17億円） ・整備費 買取り・リース等の整備方式にかかわらず「人口割90%+均等割10%」で合意	
管理運営方式	協議会方式	
システム整備後の運用経費の按分	人口割「100%」で合意 各本部に特化した設備の整備、改修については、個別整備部分とし合意	
運営計画	今後ブロック内で協議検討する。	
共同整備による効果	各本部が単独整備した場合	共同で整備（運用）した場合
1 費用面での効果	10消防本部合わせて約105億円	10消防本部合わせて約49億円
2 指令担当通信員数の減員効果	人員 10消防本部合わせて93人（現在）	人員 10消防本部合わせて63人程度
3 運用面での効果	(1) 災害対応能力の充実強化 ・平常時における消防体制の充実強化 ・大規模災害時の消防体制の充実強化 (2) 行政上の効果 ・消防救急活動の活動能力のレベルアップと均一化 ・一定区域に119番通報が集中した場合の受信能力、処理能力の向上 ・専従通信員の確保、教育訓練の効率化、業務の高度化 ・消防指令業務配置職員の増強、効率化	